



申15号

## 2026年3月運賃改定に関する申し入れ

2月24日

団体交渉を行う！①

### 1. 2026年3月に運賃改定を行う目的と根拠を明らかにすること。

●組合 ■会社

●運賃改定の目的と根拠は何か。

■取り巻く経営環境は大きく変化してきており、コロナ禍以前と比較すると鉄道のご利用は減少している。鉄道事業を安全かつ安定的に運営していくために、安全のための投資や車両・設備等のメンテナンスも欠かさずに実施していく必要があります、あらゆる場面での物価上昇により、必要なコストは増加傾向にある。このような厳しい経営環境を踏まえ、このたび運賃改定を実施することとした。

●鉄道オペレーションにおける人材の確保・定着に向けた待遇改善等を行うとプレスされていたが行うのか。

■人件費等の上昇もある。設備メンテナンスのグループ会社も人材が厳しい。作業改善・待遇改善も実施している。  
■従事員が2割程度減少している。人材確保には作業改善・働き方改革が必要であり、これにも人の力が必要で。人材確保に引き続き力を入れる。

●運賃改定による増収見込みはいくらか。  
●運賃改定を行わない場合にはどのような問題が発生するのか。

■認可申請資料では881億円だが、特定運賃の値下げもあり、現実的には820億円が増収見込み。  
■運賃改定をやらないと2027年度には設備投資の資金がショートする。

●ダイヤ改正と同時に実施する理由は何か。  
●現場ではダイヤ改正に伴う作業があり、運賃改定に伴う作業が重なることで負担が増大している。

■Suica や PASMO のシステム改修があるため、分けると煩雑になる。今回まとめて行う方が様々な面で効率的であり、システム対応含め行う。  
■チェック作業の負担軽減は消費税改定時に比べ、チェック、券売機の口座等の削減、自動的に口座設定される仕組みを大半の駅で入れている。

### 安全投資や人材確保・定着等に向けて取り組むことを確認！

### 2. 運賃改定に伴い発生する現業機関における作業について、作業内容及びスケジュールを明らかにすること。また、現場に過度な負担とならない体制を構築すること。

#### 【運賃改定当日までの要員確保について】

●各職場では、要員が逼迫している。夜間の締切などに必要な要員は確保すべきだ。企画部門からの応援等は考えているのか。  
●駆け込み購入対策で窓口の営業時間が延長となり販売機器の締切時間が変更となる。締切を行うための適切な体制をとるべきだ。

■運賃改定日は通常発生しない締切作業が追加で発生するため、増徹や繰り下げ勤務など臨時の体制を組んでいく。駆け込み需要に備え、首都圏へ本社から280名規模の応援を配置する予定。  
■出札・券売機操作などは専門知識も必要のため、応援はスキルに応じて配置を検討していく。

#### 【駆け込み購入対策について】

●「運賃改定に伴うみどりの窓口・話せる指定席券売機の営業時間延長と臨時窓口の開設について」がプレスされたが、駆け込み購入をどのように想定しているのか。  
●話せる指定席券売機の対応時間を1時間延長することだがオペレーションセンターの体制はどのような体制なのか。  
●21時まで話せる指定席券売機が稼働するため締切作業も遅くなる。超勤を前提としない体制を取るべきだ。

■過去の運賃改定の事例を参考にして直前一週間が混雑の可能性が高いので、3月9日～14日に体制を組むことにした。一律に全エリア同じ比率で運賃が上がるわけではなく、首都圏の方が改定率が高く、地方は少し低い。地方では通学定期の改訂がないため、中核駅と通学需要の高い駅で延長を行うこととした。  
■首都圏・東北共に1時間延長する。コール数を見ながら待ち時間ないように体制をとる。各駅の特情や利用状況を踏まえ、1時間延長の判断をした。  
■闇雲に超勤、休勤ということではなく必要な体制をとっていく。必ず増徹ではないが対応できる要員配置、始終業時刻の変更など必要な対応を行う。

### 超勤を前提とせずに、必要な要員体制をとっていくことを確認！

#### 【企画部門からの応援社員への教育について】

●ダイヤ改正と運賃改定の準備で窓口要員の確保が大きな負担である。応援にくる社員へ一定の教育を行っていただきたい。

■これまで応援に行った社員の中で「業務知識がない」という意見があるのは承知している。今回は、応援の人数も多いので事前にポイントを絞ってWeb勉強会を複数回実施する。